

## ボブベックのやさしい投資信託

第32回 株式型投資信託のリスク  
その8

今週もTAA型ファンドについて解説しましょう。

### (7-D)TAA型ファンド

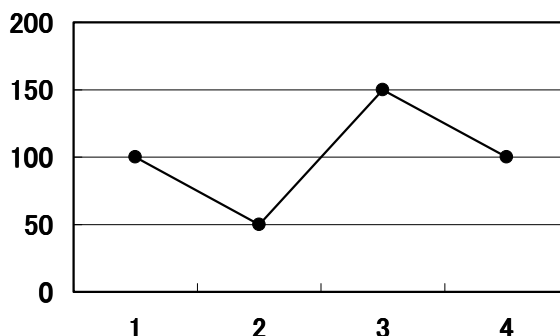
TAA型ファンドの場合、名前は似ていても、各運用会社によって、そのシステムは全く違います。そのため、パフォーマンスも大きく違って来る事は、先週お話ししました。では、見た目は似ている各運用会社のTAA型ファンドのどこに注目して、選択していけば良いのでしょうか。

#### TAAファンドの選び方

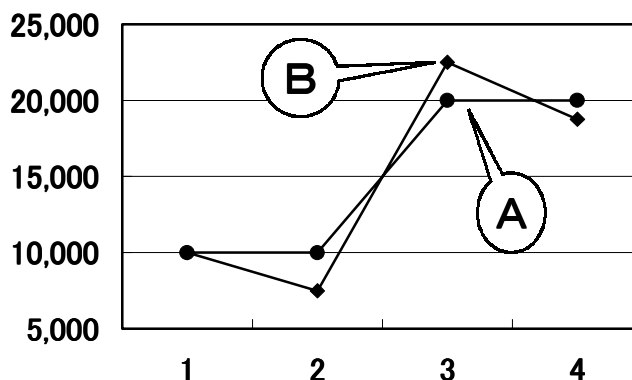
株式を割高とか割安と判断するシステムは各社の重要なノウハウですから、その内容を公開するはずがありません。株式市場の動きとファンドの基準価額を、詳細に調べていけば、どのような考え方で株式の組入比率を決定しているかが、おぼろげながら分かっては来るのですが、そんな事が出来るくらいなら、「ボブベックのやさしい投資信託」を読んでいるはずがありません。とくに自分で研究し、ファンドを選択しているでしょう。そもそも、投資信託などに頼らず、自分で株式投資をしているかもしれません。結局、残された選択肢は、過去の運用成績を見る事しかないのです。

そこで、過去の運用成績を見る時の注意点ですが、株式の上昇過程と下落過程を区別してチェックする事が重要です。区別する事で、そのファンドの基本的な考え方(保守的な運用なのか、それとも積極的な運用なのか)が見えてくるからです。右上のグラフのように株式が推移した時に、Aファンド、Bファンドがそれぞれ以下のように株式の組入比率を、変更したと考えましょう。

	期間		
	1~2	2~3	3~4
A	0	50	0
B	50	100	50



Aは保守的なファンドで、とにかく下落局面では株式の組入比率を0にします。しかし、上昇局面もそれほど積極的な運用は出来ないので50%しか組入れられない。これに対しBファンドは積極的なファンドです。とにかく株式が上昇する時は100%組入れる事を目指しています。しかし下落局面でも50%の組入れは維持してしまうのです。この時各ファンドの基準価額は以下のように推移します。



各ファンドとも4の時点での最終的なパフォーマンスにそれほど違いはありません。しかし、運用の経過は随分違います。そしてこれだけ違うと言う事は、株式が下がり続けたり、または上昇し続けた時には、大きく結果が違ってくるという事なのです。ですから、ファンドの運用成績を調べる時には、4の時点の基準価額だけをチェックするのではなく、1~2や3~4の時点で基準価額がどのように推移したのか、2~3の時点で基準価額がどのように推移したのかを区別してチェックする事が重要なのです。